

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 43

学校名・団体名	関市立武儀西小学校
HPアドレス	http://www.edu.city.seki.gifu.jp/48350_hp/ita068/index.cfm?school_id=18
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	自立と共生を図り実践的態度や能力を育む ふるさと学習
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>自然・文化・人的環境に恵まれた本校では、地域とともに子どもを育てたいという願いをもち、学校の中だけでなく、広く地域へ目を向け、地域の人々の教育力を生かした『ふるさと教育』を展開していきたいと考えている。地域の人々の教育力を存分に生かすことができるよう活動を仕組み、「子どもの学習意欲を高め、主体的に学ぶ力を育てること」、「思いやりの心や相手の立場に立ったものの見方や考え方を身に付けさせること」、「郷土を愛する心を育て、自分にできること考え、実行すること」を目指していく。</p>	

1. 対象者 全学年 50名
1年(11名)、2年(9名)、3年(5名)、4年(9名)、5年(11名)、6年(5名)
2. 教科等 生活科、理科、総合的な学習の時間
3. ねらい 地域の方とともに地域で行う様々な体験活動を通して、地域の自然や、地域の人々の思いや願いにふれ、子どもたちの自立と共生の力を育むとともに、自分にできることを考え、行動し、地域の愛着をもち、未来に向かって持続可能な社会をつくっていく担い手を育てる。

4. 体験活動『ふるさと学習』の推進

【1・2年生】 「栽培・ものづくり活動」 (通年)

学校畑を利用して花やさつまいもづくりを行った。土作り、種まき、施肥、水やり、草取りなどの活動を行った。地域講師を招いて、育てたさつまいもを使って、スイートポテトづくりを行った。自分たちで育てたさつまいもを収穫した喜びと、スイートポテトをつくる楽しさを味わうことができた(12/20)。



地域講師を招いて凧づくりを行い、連凧にして凧揚げをして遊んだ。自分たちの作った凧が大空に舞い上がる様子を見て、大いに喜ぶとともに、地域講師に対する感謝の思いを抱くことができた(2/23)。これらの活動を通して、好ましい勤労観や地域への感謝の心を育てることができた。また、今後も栽培やものづくり活動に楽しく取り組みたいという意欲をもつことができた。

【3年生】 「地域の食文化学習」 (通年)

大豆の栽培や大豆を利用した料理づくりの体験活動をした。2月15日には、地域講師を招いて、地域の伝統である「みそ玉」についての話を聞き、「みそ玉」づくりをした。蒸した大豆をすりこぎでつぶし、手のひら大の玉を作って縄に通してつるした。1ヶ月ほど干したあと、3月には醤油と麴に浸して1年ほど置いておく。4年生は、昨年作った「みそ玉」を試食し、できあがった「みそ玉」を家に持って帰った。子どもたちは、地域に伝わる



3月には地域の名産であるシイタケの原木の食菌体験とシイタケ料理体験を行う予定である。地域の食文化について体験を通して学び、今後も地域の食文化を大切にしていこうとする態度を育てていく。

【3年生】 「地域のお年寄りとの交流活動」 (5・7・9・11・1・3月)

地域の集会所(殿村集会所)で行われている「ふれあいサロン」の効果や意義などについて学習し、自分たちにもできることはないかを考え、地域の福祉委員と連携し、ふれあいサロンで高齢者との交流会を計画・実施した。「地域のお年寄りとなかよくなろう」という目標をたて、1時間半の交流時間の内容を考えた。「自己紹介」「ソイヤ(踊り)の披露」「合奏・合唱の披露」「サイエンスショー」「昔の武儀西小についての取材」「昔の遊び(けん玉、お手玉、おはじき、ビー玉など)」「昔のお正月の遊び(双六・カルタなど)」などを企画・実行し交流を深めた。子どもたちは、今後も地域の方と積極的に触れ合っていきたいという思いをもつことができた。



【4・5年生】 「米づくり活動」(5月～9月)

「地域で子どもを育てる会」の方々のご指導を受けながら、もち米の栽培を行った。苗作り、田植え、かかし作り、稲刈り、脱穀などの活動を体験した。体験後に子どもたちは、「お米づくりの大変さが分かった。作っている方々の苦労と頑張りもよく分かったので、お米を大切にして、作った方に感謝して食べようと思った。」などという感想をもった。こうした活動を通して、子どもたちに好ましい勤労観をもたせ、地域への感謝の心を育てることができた。



【4年生および全学年】 「環境学習」 (通年)

4年生は、地域を流れる津保川の水質調査、カワゲラウォッチング、上流探検、長良川源流探検など、津保川を核にした水に関わる学習を通して、地域の自然について知るとともに、自然を守っていくために自分にできることを考えた。地域に愛着を持ちながら、地球の自然を守っていくようとする意識をもつことができた。



地域の川や用水で捕まえてきた魚などを水槽で飼育し、その成長を楽しみにして、見守っている。6月に地域の上野用水でアブラハヤの幼魚を捕まえて水槽で育てた3年生児童は、「あんなに小さかった魚が10cm



ぐらいまで大きくなってビックリ。」「今も用水に小さい魚がたくさんいるけど、育つとこんな大きな魚になるのかな。」と目を輝かせて水槽をのぞき込んでいる。また、飼育箱を準備して、児童が捕まえてきた昆虫などをしばらく飼育しできるようにしている。児童は、捕まえてきた昆虫をしばらく育てながら観察し、昆虫に愛着をもつことができた。

【6年生】 「郷土の文化学習」(5月～2月)

武儀下之保地域の文化財や円空仏、歴史散策活動を通して、郷土の歴史や文化についての理解を深めた。また、地域指導者を招いて、木彫りの円空仏づくりに挑戦した。これらの活動を通して地域に愛着を持つとともに、今後も地域を大切にしていこうとする態度を育てることができた。



【全学年】 「収穫祭(11/18)」および「学習発表会・感謝の会(2/10)」

「収穫祭」では、地域の指導者や保護者を招き、昔遊び体験や餅つき、きな粉餅やあんこ餅づくりなどを行った。

「学習発表会・感謝の会」では、かかわってきた地域の方に一年間の実践を発表し、感謝の気持ちを伝え、取り組んできた自分に自信を深めることができた。



【全学年】 「防災教育」(6月、1月、2月)

本校敷地は土砂災害警戒区域(土石流)に指定されている。また、裏山は土砂災害特別警戒区域(急傾斜)に指定されている。他にも校区内には、土砂災害警戒区域に指定されている場所が多くある。局地的大雨や台風接近による風水害や、地震災害、雷や竜巻など、地域で起こりうる災害について調べたり(6月)、講師の話を聞いたり、起震車による地震体験をしたりして(1月)、災害から身を守るためにはどうすればよいかを考えた。災害に備えるための準備として何が必要かを考えたり調べたりする。また、実際に準備をしたり使ってみたりした(2月)。今後も、こうした活動を積み重ねて、非常時に生きて働く力を身に付けるようにしていきたい。



【全学年】 「生き方学習」(5月～2月)

地域で町の地場産業にかかわる人、伝統継承にかかわる人、町民の福祉や健康のために働いている人、住みよい町にするために働いている人などとの様々な体験学習を仕組んだ。その際、体験や活動をするだけでなく、講師の人となりや生き方について触れてお話していただくようにした。キャリア教育にかかわって、地域で働く(活動している)人の思いや願いを知



親子でサイエンス

音楽指導(合唱・合奏)

版画指導

親子カホンづくり

り、活動の価値や生き方を知るとともにあこがれをもたせ、自分の生き方を見つめていく機会とした。

- ・親子でサイエンス・・・おもしろ実験や科学おもちゃ作りを通して、科学に興味を持った。
- ・音楽指導(合唱・合奏)・・・合唱や合奏などの指導をしていただき、音楽会や地域の行事で披露した。
- ・版画指導・・・版画指導をしていただき、美術展や地域の行事に出品した。
- ・親子カホンづくり活動・・・音楽活動をしている地域講師に、南米の民族楽器づくりをした。演奏の仕方でも教えていただいた。練習して地域行事で披露する予定。

5. 成果と課題

- 地域素材に恵まれている武儀の地で、地域の教育力を存分に生かした「ふるさと教育」を推進した。地域素材に興味をもたせ、地域の指導者の協力を得て様々な体験活動を実施することにより、子どもの学習意欲を高めることができた。主体的に学ぼうとする力が育ちつつある(自立)。様々な地域の方とかかわることにより、思いやりの心や相手の立場に立ったものの見方・考え方、感謝の心をもつことができた。(共生)。
- 児童の意識に地域への誇りや愛着の気持ちが生まれ、地域社会に参加しようとする意欲が高まった。
- 地域講師の高齢化や多忙化により、活動内容を変更したり、活動の継続が難しくなったりしている。今後、地域講師の後継者探しをするとともに、活動内容を工夫していかななくてはならない。